

2011年9月27日

## APHEC シンポジウム 2011 in 千葉大学のご案内

メインテーマ：「東アジアにおける植物工場の新しい潮流」

開催目的:

我が国では、農水省、経産省の補助を受けて、全国の各拠点において植物工場の開発研究および展示・実証・研修事業が開始されました。植物工場に対する関心は、中国および韓国においても非常に高まりを見せており、すでに研究や実証・展示が開始されております。

APHEC (Asian Working Group for Protected Horticulture and Environment Control) は、日本、韓国、中国の研究者・技術者が相互の情報交換の場として3年前に発足し、今回3回目を迎えます。今回は「植物工場」という概念の共有化を議論すると同時に、それぞれの国における最新のトピックスを口頭およびポスターにて発表し、東アジアにおける施設園芸および環境調節技術の健全な発展のために貢献することを目的としています。使用言語は英語で行います。

時を同じくして、千葉大学では植物工場に関する国際集会在数名の海外招待講演者を迎えて開催されます ([http://npoplantfactory.org/file/Int\\_Conf.pdf](http://npoplantfactory.org/file/Int_Conf.pdf))。また幕張メッセでは「アグロイノベーション」が開催されます (<http://www.jma.or.jp/ai/ja/index.html>)。

そこでAPHEC 日本事務局は、この機会をとらえ、上記国際集会和の一部共同開催が出来ないかを検討し、下記のようにAPHEC シンポジウムを一部共同開催することを決定いたしました。日本、中国、韓国における施設園芸に関する著名な専門家が集結し、様々な発表、自由な討論、名刺交換などがされると期待されます。皆様にはお忙しい折とは存じますが、奮ってご参加をお願いいたします。

### 記

主催： APHEC (Asian Working Group for Protected Horticulture and Environment Control) 、  
共催： スーパーホルトプロジェクト協議会、NPO 植物工場研究会 (予定)  
協賛： 日本施設園芸協会、日本養液栽培研究会 (予定)

日時： 2011年11月29日(火)、30日(水)、12月1日(木、希望者のみ)  
場所： 千葉大学環境健康フィールド科学センター、シーズホールほか  
<http://www.fc.chiba-u.jp/access/access.htm>

プログラム： 11月29日(火) 植物工場拠点見学および千葉大国際集會合流参加  
9:00 「つくば植物工場拠点」および「MKV研究農場」見学  
(バスで移動)  
12:00 千葉大に戻り昼食(弁当支給)  
14:00 千葉大植物工場拠点見学  
16:30 千葉大国際集會と合同の情報交換・名刺交換会へ参加  
17:30 レセプション・パーティー(千葉大国際集會と合同)

11月30日(水) APHEC シンポジウム 2011  
9:00-17:00 研究発表  
口頭発表(日・中・韓、それぞれ3名ずつ)  
ポスター発表(発表自由、3分間紹介スピーチつき)  
午前・午後に休憩、昼食(弁当支給)  
17:30 フェアウェル・パーティー  
20:00 閉会

12月1日(木) オプショナル見学(希望者のみ、先着10名)  
10:00 千葉大松戸キャンパス植物工場研究センター視察  
13:00 アグロイノベーション参加  
(無料入場券は参加者全員に配布します)

## APHEC Symposium 2011 in Chiba University 1<sup>st</sup> circular

- 参加費： 15,000 円（シンポジウム資料代、見学代、昼食 2 回、ディナーパーティー 2 回、ほか）
- 参加人数： 会場の都合もあり、先着 30 名に限定させていただきます。
- 参加申し込み： 下記の申し込み書に必要事項を記入し事務局にメールかファクスでお願いします。  
（発表をされる参加者を優先します。限定人数に達した場合は、事務局からお断りの連絡をいたします）
- 発表申し込み： ポスター発表に限りませんが、ぜひ積極的にご発表ください。  
3 分間の紹介発表をしていただきます。  
テーマは施設園芸、環境調節などに関わるものであれば自由です。  
ポスターのサイズは幅 90cm x 高さ 120cm 以内とします。  
アブストラクトを 11 月 10 日までに事務局へ提出してください。  
（下記の見本を参照して作成してください）
- 宿泊： 各自でお願いいたします。  
海外からの参加者は三井ガーデンホテル柏に宿泊する予定です。  
<http://www.gardenhotels.co.jp/eng/kashiwa/>
- 実行委員会： 実行委員長：糠谷 明（静岡大学教授）  
実行委員：古在豊樹、篠原 温、池田英男、丸尾 達、北条雅章、塚越覚、淨閑正史  
（千葉大学園芸学研究所）
- 連絡先： 篠原 温  
千葉大学園芸学研究所  
E-mail; [shinohara@faculty.chiba-u.jp](mailto:shinohara@faculty.chiba-u.jp)  
Tel & Fax; +81-47308-8804



稼働中の千葉大学植物工場拠点（柏キャンパス）の俯瞰図

## APHEC 2011 in Chiba University 参加申込書

	氏 名		所属先名
	氏	名	
日本語			
アルファベット			

所属先住所	
電話番号	
ファクス番号	
メールアドレス	
12月1日見学希望	有無
ポスター発表希望	有無
発表課題名(英文)	

アブストラクトの作成について  
(以下はアブストラクトの見本ですが、2 ページものを作成ください)

## **Present Status of Soilless Culture in Japan and Asian Countries with Introduction of Some New technologies**

Y. Shinohara  
Faculty of Horticulture, Chiba University  
648, Matsudo, Chiba, 271-8510, Japan

S. Tsukagoshi  
Center for Environment, Health and  
Field Sciences, Chiba University  
Kashiwa-no-ha 6-2-1, Kashiwa,  
Chiba, 277-0882, Japan

### **Abstract**

Though the acreage of soilless culture has been increasing favorably in Japan and it became 1,348ha in 2001, it is still only about 2% of total greenhouse area (53,000 ha). The proportion of growing systems between hydroponics (DFT, NFT) and substrate culture (mostly RW) is about half and half. Tomato is the main crop and the bench culture of strawberry has increased rapidly these few years. For the consciousness to the environment, recirculating systems are strongly recommended, but the run-off culture system is still main nutrient solution management in RW culture. The studies on how to decrease the run-off solution is energetically conducted in several institutes as cooperate research project. Quantitative management of nutrients supply by cumulative solar radiation is one of the accomplishments of the project. The author describe this method in the text into more detail.

This culture is thought to be one of promising production methods in world wide scale including tropical countries. But this system has been still not popular in the most of Asian countries except for Japan, Korea and Taiwan. The acreage in Korea is 700 ha in 2000 and the situation is very similar to that in Japan. In Taiwan the acreage was 81 ha in 2001. But no statistical date could be obtained from other Asian countries. There are considerable number of commercial managements in those countries and the author introduce the characteristics of these movement in the text.

これが、Acta Horticulturae の Abstract のフォームですが、今回のシンポジウムは2 ページものになります。フォント(Times New Roman、12ポイント)、マージン(上下左右25mm)を守れば、あとは自由に作成してください。

Title, Introduction, Materials and Methods, Results and Discussion, Literature cited の順に書き、必要があれば表、図も入れます。要するに、2 ページに入れば何を入れても良いということみたいです。  
フレキシブルにお考えください。

**なお、発表要旨の締め切りは、11月10日ですのでこれはお守りください。**

以下は、英文のガイドです。

If you are interested in attending this symposium, please submit your abstract to the organizing committee of the symposium by Nov. 10<sup>th</sup>, 2011. For submission of the abstract, we need title, introduction, materials and methods, results and discussion literature cited, important tables and figures within 2 pages. It might be a different format depending on the topics but nearly the same type as shown in in the Acta Horticulturae.